

第 5 節 重点課題

本市では、前回計画の取組状況や関連計画との整合、各種調査結果等を踏まえると、高齢化の進行に伴う課題の多様化や、地域で安心して暮らし続けるための支援体制の充実が重要となっています。

このため、本計画では、健康づくりや介護予防、地域とのつながり、認知症への対応、日常生活を支える環境づくりなどの観点から、重点的に取り組むべき課題を整理します。

課題 1 健康維持と介護予防を、日常生活の中で継続できる仕組みづくり

高齢者ができる限り健康を維持し、住み慣れた地域で自立した生活を継続していくためには、介護予防を特別な取組としてではなく、日々の暮らしの中で無理なく継続できるものとして展開していくことが重要です。

現状を見ると、健康づくりや介護予防への関心は高い一方で、日常生活の中で継続的に取り組める環境づくりがなお重要となっています。こうしたことから、運動、栄養、口腔、社会参加などを組み合わせた総合的な介護予防施策を推進するとともに、通いの場や地域活動、生きがいくつりと連動した参加しやすい仕組みづくりが必要です。

課題 2 孤立を防ぎ、支援が必要な高齢者を早期に把握し支援につなぐ体制づくり

高齢者が地域で安心して生活をするためには、孤立を防ぎ、支援が必要な状態に至る前又は重度化する前に、早期に気づき、適切な相談・支援につなげる体制を整えることが重要です。

地域での状況を見ると、身近な支え合いの関係が十分でない層や、地域との接点を持ちにくい層もみられます。このため、見守り、声かけ、アウトリーチ、相談支援、小地域ネットワーク、地域包括支援センターの機能強化などを通じて、地域の中で支援が必要な人を把握し、支援につなぐ仕組みづくりを進める必要があります。

課題 3 認知症や判断力低下を含む複合的な課題への対応強化

高齢化の進行に伴い、認知症や判断力低下に起因する生活上の課題は、今後一層重要性を増すことが見込まれます。

認知症に対する関心は高まっている一方で、相談先や支援制度の周知、早期相談への接続にはなお課題がみられます。このため、認知症予防の普及啓発に加え、早期相談、家族支援、見守り、認知症への理解促進、権利擁護、成年後見制度の周知などを含め、地域で安心して暮らし続けるための支援を総合的に進める必要があります。

課題 4 外出・移動・買い物・住まいなど日常生活を支える基盤の充実

高齢者の暮らしを支える上では、介護や福祉サービスそのものに加え、外出、移動、買い物、住環境など、日常生活を支える基盤の確保が重要です。

日常生活を支える環境に目を向けると、外出、移動、買い物、住環境などに不安や不便を感じる高齢者への対応が重要となっています。このため、移動支援、買い物支援、住環境整備等を一体的に進める必要があります。

課題 5 地域とのつながりや社会参加を維持し、生きがいと役割を持って暮らせる環境づくり

高齢者がいきいきと暮らしていくためには、健康の維持だけでなく、地域とのつながりや社会参加、生きがい、役割を持てる環境づくりが重要です。

地域活動への参加状況を見ると、地域とのつながりを持ちにくい層がある一方で、交流や生きがいづくりへの意向もみられます。このため、参加しやすい活動を入口としながら、見守りや生活支援、ボランティア等へ段階的につながる仕組みづくりを進める必要があります。

課題 6 相談しやすく、必要な情報が届き、利用しやすい仕組みづくり

高齢者が必要な支援を適切に利用するためには、必要な情報が分かりやすく届き、相談しやすく、制度や手続が利用しやすい環境を整えることが重要です。

高齢者が必要な支援を適切に利用するためには、情報が分かりやすく届き、相談しやすく、制度や手続につながりやすい環境づくりが重要です。このため、紙媒体、対面相談、地域拠点での案内、ICT 活用支援を組み合わせ、情報提供と相談支援の充実を図る必要があります。

課題 7 介護・福祉サービスを安定的に提供するための基盤強化

地域包括ケアシステムを推進し、高齢者の多様な支援ニーズに対応していくためには、介護・福祉サービスを安定的に提供できる体制を確保することが重要です。

介護・福祉サービスを取り巻く状況を見ると、人材確保や専門性の向上、地域や医療との連携強化など、サービス提供体制の基盤整備が引き続き重要となっています。このため、人材確保・定着、研修、ICT 活用、医療連携、地域連携の強化など、サービス提供体制の基盤強化を進める必要があります。